

『わがまち情報交換会』の動画を配信しています

YouTube『たがさぽチャンネル』で、2021年10月22日に開催した『多賀城 自治会・町内会 わがまち情報交換会』の様子を公開しています。

「水辺の防災」「コロナ禍での情報発信」「人材発掘」の3テーマで、8つの自治会・町内会の取り組みを紹介しています。さまざまな工夫で、地域を支えているみなさんの想いが感じられる動画です。ぜひ、今後の地域づくりの参考にしてください。

動画視聴 自治会・町内会 わがまち情報交換会

水辺の防災編

コロナ禍での情報発信編

地域の人材発掘編



ヒント from たがさぽ Press たがさぽのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します！

HINT/ 01 春うらら
「多賀城旧13カ村をめぐる歴史散歩」
2021年3月4日(木)掲載

HINT/ 02 これからの可能性のタネを育てよう
～3.11を振り返って見えてきたこと～
2021年3月19日(金)掲載

HINT/ 03 「町内会はみんなのために」
すみだ24年の取り組みで見たこと
2019年12月1日(日)掲載

たがさぽホームページ
多賀城市市民活動サポートセンター

たがさぽPress
たがさぽスタッフによるブログ

@tagasapo

YouTube たがさぽチャンネル

tag アンケート

誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします！

以下のような情報もお待ちしています！

- 自分たちの団体を取材してほしい
- こんな話題を取り上げてほしい
- ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている

What's? tag.

「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタッグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。

たがさぽとは？

多賀城市市民活動サポートセンター(通称たがさぽ)は、「もっとまちを良くしたい!」「地域にあるいろんな困りごとを解決したい!」という想いをもって、地域でさまざまな活動に取り組む市民のみなさんを応援する「地域づくり」の拠点施設です。

発行:多賀城市市民活動サポートセンター

〒985-0873 宮城県多賀城市中央2丁目25-3
(多賀城市文化センター北隣・上下水道部向かい)
TEL:022-368-7745 / FAX:022-309-3706
発行:2022年8月
編集:NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター



多賀城発で多賀城着。
ヒト・コト・モノを届けます。

「tag(たっぐ)」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援するフリーペーパーです。



▲多賀城政庁第II期の掘立柱式建物跡を案内する大橋さん。(6月開催/市川方面)

多賀城市史跡案内サークルは1993年の結成以来、ガイドツアーや勉強会、史跡周辺の清掃活動を通して多賀城の歴史遺産の魅力を伝承しています。

今年4月からは、『多賀城旧13カ村を巡る“いきいき歴史ウォーキング”』と題して、市内に残る遺跡・神社仏閣などを巡るまちあるきを毎月開催しています。「多賀城には素晴らしい史跡がたくさんあるのに市民になじみがなく、知る機会も少ない。まちあるきをきっかけに親しんでもらいたい」とサークルのみなさんは声を揃えます。参加した方は、「多賀城に住んで長いけど、知らないことがたくさんあって面白い」「健康的に歩きながら、学ぶことができてうれしい」と話していました。

2年後は、多賀城創建1300年。この機会にさまざまな歴史遺産に触れ、悠久の時の流れに想いを馳せてみませんか？

今後の予定・参加希望のお問合せはこちら

多賀城市史跡案内サークル ☎ 090-1937-3147 (代表:大橋光雄さん)

多賀城歴史散歩 古き良き史跡をたずねて



▲復刻された漏刻(水時計)。住宅地の中に史跡が現れます。(5月開催/高崎方面)



▲足の神様として知られる『荒脛巾神社』。たくさんの靴が奉納されている様子に驚く参加者。(6月開催/市川方面)



みんなで考える多賀城のこと

暮らしやすい地域を目指して ～これからの自治会・町内会～

自治会・町内会の運営課題として多くあがるのが「役員のなり手不足」。そんな中、新たに会長となって地域のために尽力している4名にお話をうかがい、さまざまな課題の解決や今後の活動に向けたヒントを探ります。

新田三区

「そなえる新田」の防災対策

引っ越してきてから約20年にわたって、仕事をしながらずっと役員として関わっている伊藤さん。7年前に副会長となり前会長を支えてきましたが、前会長の退任に伴い今年度から会長になりました。新田地区は七北田川沿いの地域ということもあり、防災意識がとて高く「そなえる新田」として、さまざまな活動を行っています。防災訓練と夏まつりと組み合わせて行う『防災グッズもちだしコンテスト』や炊き出し訓練を兼ねた『防災いも煮』などは子どもたちにも大人気のイベントで、『防災いも煮』には300人近い参加者が集まることもあるそうです。「新田三区はアパートも多く、新しい住民が増えています。だからこそ顔が見える関係が大切」と話していました。

新田三区



伊藤五郎会長に
うかがいました



▲前会長と一緒にこなってきた数々の取り組みを振り返る伊藤さん。

◀親子で楽しんで参加できる防災イベントの様子。

城南自治会

コロナ禍でも住民の交流を

2006年の立ち上げ時から自治会に携わってきた高橋さん。会長代理を経て、今年度から会長になりました。城南自治会では、コロナ禍で活動が制限されている中、住民の交流を目的にフォトコンテストや史跡巡りを開催しています。これらの企画には「自分が住む地域に興味を持ってもらいたい」というねらいがありますが、同時に、世代を超えた関係性づくりがいざという時に役立つとの考えもあるそうです。また、新しい津波浸水想定や砂押川の氾濫による洪水に備え、防災対策の見直しを検討しているほか、市の防災訓練にも地域ぐるみで取り組んでいます。月1回の地域清掃には若い世代を含め100人近く集まるなど、普段の活動の成果が協力体制としても形になっていることがわかります。

城南



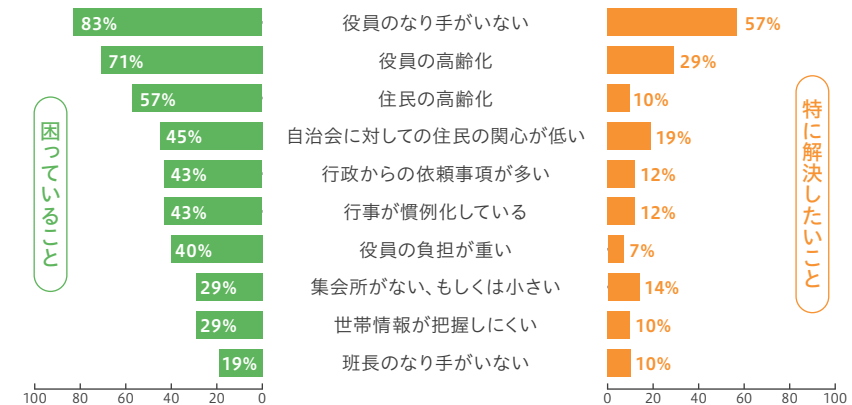
高橋伸会会長に
うかがいました



▲「未来に残したい城南の今」をテーマに、国府多賀城駅で開催されたフォトコンテストを案内する高橋さん。

◀コロナ禍で中止になっていた住民の交流の場『城南日曜カフェ』を6月に野外で再開しました。

自治会運営において 困っていること・特に解決したいこと



出典:多賀城市市民活動サポートセンター『平成29年度多賀城市自治会課題・取り組み事例調査報告書』より(上位10項目)

自治会・町内会の関心事

- コロナ禍における事業運営(イベントの中止・防災対策など)
- 地区内の情報共有(町内会新聞・ホームページなど)
- 事業が行えない中での町内会費
- 他組織との連携(民生委員・こども会など)
- 役員の確保(なり手不足・高齢化)
- 町内会への加入

※令和3年度 多賀城市地域コミュニティ課主催 町内会情報交換会で寄せられた意見より

▶すべての項目がわかるグラフを含む、報告書はこちらです。



桜木南区町内会

わかりやすく、伝えやすくする取り組み

30年務めた前会長から昨年4月に会長を引き継いだ齋藤さん。それまでも役員として町内会の運営に関わってきました。前会長が培ってきたことを直接口頭で引き継ぎましたが、次の会長へよりわかりやすく伝えるためにマニュアルを作り、文章で残す取り組みを進めています。

防災マップの活用もそのひとつ。桜木地区は東日本大震災の津波で大きな被害を受けた地区で、指定避難場所からは離れています。震災後に作成した防災マップを活用し素早い避難ができるように、「自分の住んでいる場所から一番近くて高い建物がどれかを考え、そして覚えておいてもらいたい」と齋藤さんは話します。ツールを活用しながら一人一人が日頃から災害に備えることの大切さを伝えていきます。

桜木南



齋藤由香会長に
うかがいました



▲「防災マップを通してお年寄りの方が素早く避難できる場所を伝えたい」と話す齋藤さん。

◀前会長が作成した、地域の高い建物や震災時の浸水域がひと目でわかる防災マップ。

下馬南自治会

少しずつ防災意識を高めていくために

保健推進委員や副会長を経て、昨年4月から町内会長を務めている森さん。多賀城市が2004年度から始めた『地域防災リーダー養成講座』の一期生だったこともあり、地域の防災や防犯については並々ならぬ想いがあります。月2回、10年間続けている『下馬サロン』は、下馬エリアの4地区から集まった参加者が体操やストレッチで体を動かすことがメインですが、合間に防災や防犯にまつわる講話も取り入れています。「避難訓練をやっても他人ごとのように考えている人が多い」と感じることもあり、「身近な人たちから意識を変えていきたい」と森さんは話します。「地域から被害者も加害者も出たくない」。そんな想いが下馬南の安全を支えています。

下馬南



森柳子会長に
うかがいました



▲本格的なストレッチを取り入れつつ、和やかな時間が流れています。

◀体操は参加者のみなさんの元気の秘訣。多賀城市民歌体操では、歌いながら体を動かす方も。

